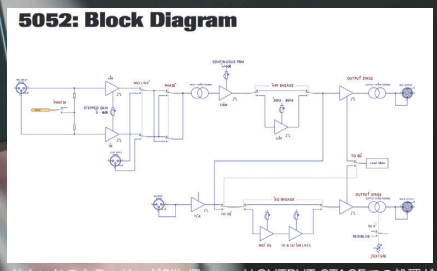
01-B Professional Recommend Equipment

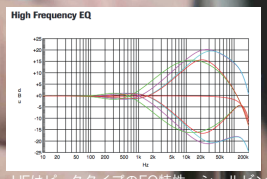
進化を続けるNEVEクラフトマンシップとポリシー

今や伝説とも言えるヴィンテージの大定番「NEVE 1073」や「NEVE 1084」をベースに,オリジナルプロダクトの設計者であるRupert Neve本人が現代のサウンドにリファインし再定義したプロダクト。

世界中で愛されるNEVE 1073の持つクリアで艶やかで心のあるそのサウンドは奇跡の一品とも。そのサウンドキャラクター、EQ等の操作性、利便性を現代の制作環境に合わせ徹底的にブラッシュアップ。多様なキャラクターを求められる制作現場に向け、Portico IIシリーズのRED/BLUE SILK/TEXTUREコントロールを備えたアウトプットトランスを採用。これまでのRupert Neve Designの集大成とも言えるプロダクトの登場だ。Rupert Neveの50年に歴史におけるプロダクトの進化にオリジナルの良さとモダンな使用感をプラス。特に『Silky』と形容されるHi Freq EQは、空気に直接触れるようなナチュラルさ、大きな破綻を生まずに非常に扱いやすい特性だ。5088Consoleや5059 Satellite、5060 Centerpieceと合わせて使用するのがベストとRupert Neve本人が語っている自信作だ。 録音、ミックスにおいて楽器やボーカルを自然に浮き上がらせてくれる理想的なカーブを持つプリセットEQは、NEVEプロダクトの伝統とも言える美点。



サウンドのカラーリングSilk/TextureはOUTPUT STAGEでの処理だ



HFはピークタイプのEQ特性、シェルビングではないのです

Rupert Neve Design-Shelford 5052 MicPre

Price：¥313,200（税込）

BAE DMP MicPre/DI

Price：¥162,514(税込)

BAE、それは究極のリバーステクノロジー

ハリウッド在住のヴァン・ヘイレン、マイケル・ジャクソンなどのサウンドをクリエイトし、Neve、 API などのヘッドアンプや EQ を数百台ラック改造をしたレコーディングエンジニア、ブレント・アヴェリル。状態のいいビンテージ機材の入手困難に伴い、自らリプロダクトを開始したそのメーカーがBAE Audioだ。ビンテージNeve1272 プリアンプモジュールをBAE Audio が回路、設計を徹底的に解析し3年にも及ぶブラインドテストを元に究極のリバーステクノロジーによるリプロダクション・シリーズが完成した。

BAE DMP 1ch Portable Mic Preamp / DI はトロイダルトランスを内蔵した電源と共にコンパクトで堅牢なケースに内蔵したデスクトップモデルだ。トランジェントとピークがアナログ的な温かみをもってナチュラルにコンパウンドされ、「豊かな低音と滑らかな高音は実際の音よりリッチで雄大なサウンドで録音できる」（ブレント・アヴェリル談）。マイク、ミキサー間の距離がある場合のケーブルのキャパシタンス（静電容量）とインピーダンスによる音質の劣化を防ぐため、BAE DMPをステージやレコーディングブースに配置してのラインレベルでの伝送は音響的な利点が得られ、より低ノイズで躍動感のあるサウンドを収録する有効な手段となる。Brent氏の経験に基づきチューニングされたそのサウンドは、是非とも体験して欲しいクオリティーだ。

Wes Audio Beta76 Compresser

Price：¥199,800(税込)

歴代1176を愛し、知り尽くすWesolowski氏の自信作

スタジオの超定番アウトボードであるUniversal Audio(UREI)の1176。1176といえば、スレッショルドを持たず、インプットで、固定されたスレッショルドに対してコントロールをするオプトコンプのような設計を持ったFETコンプレッサー。とりわけボーカルのコンプレッションには空気感のイメージ、ボーカルのニュアンスを明確に表現ができる。WesAudioの設計者Radoslaw Wesolowskiは数多くのオリジナル1176を知り尽くしたポーランドの新進気鋭のエンジニア。その彼の設計するBeta76はオリジナルの1176コンプレッサーのデザインをベースに、電源周りやリンク回路の再設計、さらにはオーディオ品質向上のためのシャーシ素材の選択と設計にまでのチューニングが行われている。1176は生産期間も長期間に渡り、数々のリビジョンがあり回路や仕様パーツが変更されている。リビジョン違いだけでなく経年変化や、使われ方によって様々な音質を持つ1176の選択に悩まれている方も多いのではないだろうか？そのリファインの中でも一番の変更点は、モダン/ビンテージ・モードの切り替え。リビジョンの違いによる一番大きなサウンドの違いと言われる入力段、入力トランスとオペアンプを切り替えることでそのサウンドキャラクターをスイッチしている。コアユーザーの間でよく議論されるBlack Panelと、Silver Panelの差異。両者のキャラクターの肝となる部分を切り替えることができるのだ。更にSide Chainも搭載され、3ポイントのHPFは1176のコントロールに革命を起こす。制作の現場ではほぼマストと言っても過言でない1176。使い勝手はオリジナル以上だ。

02Worldwide Plug-ins Seeing

SYNCHRO ARTS ReVoice PRO

Price：¥102,000

仕事で使えるVocalダブルトラックを瞬時に仕上げろ！

コーラス編集やボーカルのダブルトラック作成の際、一番苦労する点と言えば抑揚のタイミングを合わせることではないでしょうか？ましてラップのような音節の多いフレーズに対してダブルトラックなどの作成作業は骨の折れる作業です。そんな時にはReVoice Proを使いましょう! SyncroArt社はVocAlignが代表作ですが、こちらはその機能を拡張したもの。このソフトウェアなら読み込んだオーディオ・ファイルの“抑揚のタイミング”を、別のオーディオ・ファイルへ自動で合わせ込むことが可能です。しかも、このソフトはスタンドアロンもしくはAudio Suite。Revoice Pro Linkというプラグインにより、Pro Tools上のクリップを簡単にスタンドアロンのReVoice Proへトランスファーが可能。Vocalignと異なる点は一度に複数のチャンネルに対して編集作業ができること! 複数のコーラストラックがこれで一気に処理が可能です!!

ReVoice Proではその他にもピッチの補正もできるので、オーバーダビングをすることなくヴォーカルのダブルトラックの作成ができる機能もあります。世代が更新されたアルゴリズムによりVocalign Proに比べて音質変化も少なくなり、ベストテイクの音質を損なうことなく編集が可能です。その操作は非常に簡潔。APT=Audio Perfomance Transferにより自動的に計算された結果をどれくらい適用するかという事になります。タイミングをタイトに合わせるのかルーズにするのか？ピッチはどうするのか？レベルはどうするのか？という非常に直感的なインターフェース。

複数のトラックを同時に編集できるということは某アイドルユニットのような、大人数のユニゾンに対しても容易に編集ができるということです。例えば10人のメンバーが同じフレーズを歌いそれを薄く混ぜて１本に聞かせるようなミックスを要求された時は迷わずRevoice Proを使用してください。気の遠くなるようなエディット作業はもう必要ありません。あっという間に1人の歌い方を他の9人に適用してしまうわけです。ReVoice Proを駆使することによって、今までのEditやレコーディングをぐっと短縮化することができます!!